

2025年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧<リハビリテーション学科作業療法学専攻>

科目	単位数	実務経験のある教員による授業科目
基礎ゼミナールⅢ (OT)	2	担当教員は医療機関や福祉施設等で作業療法士として従事した経験を持つ（掛川18年、辻14年）
基礎ゼミナールⅣ (OT)	2	実務経験あり：担当教員は身体障害領域、精神科領域において、作業療法士としての臨床経験があり、その臨床経験を活かし、医療従事者としてのコミュニケーション技術や体験実習で求められる技術を指導していく（掛川18年、辻14年）。
社会学	2	医療機関にて社会福祉士・精神保健福祉士として13年、厚生労働省において相談支援専門官として2年業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、社会学に関連する知識や視点等についての授業を行う。
経済学	2	NPOや一般企業での勤務経験、また現在、市民セクターと企業セクターの協働の実践の構築の経験が10年ある。それらの実務経験を活かし、社会福祉の学びが一般企業においてどのように生かされるのかを実践の紹介を交えて講義をおこなう。
日本史	2	国公立小学校、大阪府教育センターにおいて社会科学習を担当した経験があり、その実務経験を活かし日本の歴史に関わる知識を広げ、歴史の見方・考え方についての理解を深める。
保健体育 (B)	2	主として小学校において、教諭及び管理職として業務に従事した経験（37年間）があり、その実務経験を活かし、学校現場や児童・生徒の実態や様子も踏まえながら、より具体的な授業を行う。
体育実技 (A)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
体育実技 (B)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
体育実技 (C)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
医療英語Ⅰ（医学英単語）(OT)	1	担当教員は、英語の論文抄読、研究発表、論文発表等の経験を持ち、その経験をもとに授業を行う。
オーラルコミュニケーション	2	兵庫県内の公立と私立の中学校・中等教育学校・高等学校において、教諭および主幹教諭として通算40年以上業務に従事した経験がある。この授業では、その実務経験を活かし、実践的な英語力を修得するための授業を行う。
総合教養	2	（福祉創造学科 加藤友野）総合病院などにおいて看護師として23年間業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし終末期に関する法的根拠、心身の変化などの知識、支援方法についての授業を行う。 （福祉栄養学科 伯井朋子）保健所や健康増進施設等で30年公衆栄養業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし「栄養と健康」についての授業を行う。 （リハビリテーション学科 重森健太）地域理学療法分野で25年。
医療キャリアデザイン② (OT)	1	担当者は医療施設・福祉施設等において作業療法等の業務に10年～35年、またキャリアサポート等の実務経験がある。それら実務経験を活かし本授業を行う。
臨床心理学 (リ)	2	講師は公認心理師、臨床心理士の有資格者であり、医療機関においては小児科・精神科の心理臨床技術者として、また障害福祉領域においては放課後等デイサービスや就労移行支援、生活・自立訓練等の事業や支援に関わってきた。特に発達障害がある児童においてはOT/ST/PTなどとも連携をしてきた実績がある。
運動学 (OT)	1	実務経験あり：担当教員はいずれも医療機関において身体機能分野の作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし運動学について授業を行う。実務経験：楠田（15年）、有久（14年）
内科学・生活習慣病	2	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし内科学と生活習慣病についての授業を行う。
神経内科学	1	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし神経内科学についての授業を行う。
高次脳機能障害学演習 (PT・OT)	1	作業療法士免許と臨床の実務経験を有する教員（実務経験18年）、言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（実務経験12年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
救急医療	1	担当者は医療施設等において、医師として、作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし授業を行う。
作業遂行学Ⅰ（基礎）①	1	身体障害領域総合病院、介護保険領域、保健領域等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行う。 担当教員の实務経験年数は以下のとおりである。 藤井：34年 中原：17年

作業遂行学Ⅰ（基礎）②	1	介護保険領域及び行政において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行う。実務年数は34年である。
リハビリテーション概論	2	実務経験あり（25年）：病院、施設において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かしてリハビリテーション概論についての授業を行う。
薬理学（リ）	2	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして薬理学についての授業を行う。
病理学	1	この科目の担当教員は実務経験者である。
臨床作業運動学	1	実務経験あり：医療機関において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。（有久：14年、中原：17年）
作業療法概論	1	担当各教員は医療機関や福祉施設等の領域で作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。 教員の实務経験は以下である。 丹葉：約30年 永井：約30年
基礎作業学Ⅱ（治療的応用）	1	担当教員は医療施設で作業療法士としての実務経験があり、その実務経験を生かして本授業を行う。担当教員の実務年数は以下のとおりである。 （辻：14年 生水：10年）
研究演習	1	担当教員は作業療法士として臨床研究に取り組んだ経験があり、本講義ではそれらの研究を紹介しながら理解を深めていく。 実務経験 楠田：15年、丹葉：33年。
作業療法評価学 総論	1	担当者は医療機関、福祉施設、療育施設等において作業療法士として30年以上業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし授業を行う。
身体機能作業療法評価学Ⅱ	1	実務経験あり：担当教員は、急性期や回復期病院での実務経験があり、この経験をいかして実際の対象者に対して計画計画の立案から治療までのプロセスを指導する。（実務経験：掛川18年、中原17年）
精神機能作業療法評価学	1	精神科病院および地域通所施設において作業療法士として10年間業務に従事した経験がある。
精神機能作業療法治療学	1	精神科病院および地域通所施設において作業療法士として10年間業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、疾患別の特徴やその回復段階の特徴についての授業を行う。
身体機能作業療法学総論	1	実務経験あり：医療機関において作業療法士として業務に従事した経験がある（有久14年、山本16年）。その実務経験を活かして身体機能の作業療法についての授業を行う。
認知機能作業療法学	1	実務経験あり：担当者は医療施設・福祉施設等で作業療法士として実務経験（18年）があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
高齢期作業療法学	1	高齢者福祉施設、介護保険領域、身体障害領域総合病院で作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして高齢期の特性、作業療法評価及び実践についての授業を行う。 担当教員の实務経験年数は以下のとおりである。 藤井：34年 中原：17年
発達過程作業療法学	1	療育施設や特別支援教育の領域において作業療法士として約30年業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、具体的事例を含めながら授業を行う。
精神機能作業療法総合演習Ⅰ（評価）	1	精神障害領域医療施設において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして精神障害者のニーズに即した支援や地域での生きづらさについて考える授業を行う。担当教員の実務経験は以下のとおりである。 （辻：14年 生水：10年）
精神機能作業療法総合演習Ⅱ（治療）	1	精神障害領域医療施設および地域通所施設において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして精神障害者のニーズに即した支援や地域での生きづらさについて考える授業を行う。担当教員の実務経験年数は以下のとおりである。 （辻：14年 生水：10年）
身体機能作業療法学各論Ⅰ（脳血管・運動器疾患）	1	担当教員は病院、訪問リハビリテーションなどで作業療法士として業務に従事した経験（実務経験：15年）があり、その実務経験を生かして、身体機能作業療法学の実践、治療原理について授業を行う。
身体機能作業療法学各論Ⅱ（内部障害・がん他）	1	実務経験あり：担当教員は、急性期や回復期病棟での実務経験があり、この経験を生かして実際の対象者に対して計画の立案から治療までのプロセスを指導する。 実務経験：掛川（18年）、中原（17年）
発達過程作業療法治療学	1	リハビリテーションセンターや療育施設、特別支援教育の領域において作業療法士として約30年業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、具体的事例を含めながら授業を行う。
環境と作業療法	1	大学附属診療所、訪問介護施設、障害者支援施設、身体障害者リハビリテーションセンター等（16年）において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、物的環境に対する身体機能の変化について教授する。
地域作業療法学	2	大学附属診療所、訪問介護施設、障害者支援施設、身体障害者リハビリテーションセンター等（16年）において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、物的環境に対する身体機能の変化について教授する。
高齢期地域生活支援論	1	一般病院、訪問等介護保険領域、保健領域で作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして地域包括ケアシステム等地域で高齢者を支援するサービスについて及び作業療法実践についての授業を行う。 担当教員の实務経験年数は以下のとおりである。 藤井：34年 中原：17年

生活環境整備論	1	大学附属診療所、訪問介護施設、障害者支援施設、身体障害者リハビリテーションセンター等（16年）において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、物的環境に対する身体機能の変化について教授する。
卒業研究（OT）①	2	各教員が医療機関や福祉施設等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして学生が設定した研究テーマについての指導を行う。 各教員の实務経験については以下である。 丹葉：33年 藤井：34年 中原：17年 本多：16年
卒業研究（OT）②	2	各教員が医療機関や福祉施設等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして学生が設定した研究テーマについての指導を行う。
卒業研究（OT）③	2	各教員が医療機関や福祉施設等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして学生が設定した研究テーマについての指導を行う。
職業リハビリテーション演習	1	障害者支援就労支援施設、リハビリテーションセンター、当事者・家族会等において、小児～高齢者の職業リハビリテーション支援に従事した経験があり（16年）、その実務経験を活かし職業リハビリテーションについて教授する。
領域別演習（基礎・身体・精神・発達・地域）	1	各教員が医療機関や福祉施設等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして学生が設定した研究テーマについての指導を行う。 各教員の实務経験は以下のとおりである。 丹葉：33年 有久：14年 辻：14年 藤井：34年 掛川：18年 生水：10年 中原：17年 本多：16年 山本：16年 楠田：14年
身体機能作業療法総合演習Ⅰ（基礎）	1	担当教員は全員、身体機能分野の施設で作業療法士として従事した経験（楠田：15年、山本：16年、掛川：19年、永井：32年）があり、また現在も従事している。 その経験を活かして実際の対象者とのかわりが必要で必要な態度や面接、検査測定の方法について指導する。
身体機能作業療法総合演習Ⅱ（評価）	1	担当教員は、急性期や回復期病院での実務経験があり、この経験を活かして実際の対象者に対して計画計画の立案から治療までのプロセスを指導する。（本多16年、掛川18年、有久14年）
身体機能作業療法総合演習Ⅲ（治療）	1	実務経験あり：担当教員は、急性期や回復期病院での実務経験があり、この経験をいかして実際の対象者に対して計画計画の立案から治療までのプロセスを指導する。 実務経験：掛川（18年）、本多（16年）、楠田（14年）
作業遂行学Ⅱ（評価）	1	身体障害領域総合病院、身体障害者リハビリテーションセンター、介護保険領域、保健領域において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行う。 担当教員の实務経験年数は以下のとおりである。 藤井：34年 本多：16年 中原：17年
作業遂行学Ⅲ（治療）	1	身体障害者リハビリテーションセンター、身体障害領域総合病院、介護保険領域、保健領域において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行います。 担当教員の实績年数は以下のとおりである。 藤井：34年 本多：16年 中原：17年
身体機能作業療法治療学	1	実務経験あり：担当教員は、急性期や回復期病院で作業療法士としての実務経験がある（有久14年、本多16年）。この経験をいかして実際の対象者に対して計画計画の立案から治療までのプロセスを指導する。
作業運動学	1	担当教員はいつでも医療機関において、身体機能分野の作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。実務経験：楠田（15年）、有久（14年）
栄養学（リ）	1	リハビリに取り組むアスリートに対する栄養教育経験のある管理栄養士である教員が、その実務経験を活かして栄養学についての授業を行う。
整形外科学	1	担当者は医療施設において整形外科医として実務経験があり、またスポーツ整形外科、膝関節外科、再生医療を専門としており、その経験を活かして本授業を行う。
小児科学	1	小児科専門医として豊富な臨床経験を持つ
医療安全・感染症学	1	医療機関において内科医師として、36年間診療に従事しており、その経験を活かして実践的な医療安全学や感染症学についての授業を行う。
リハビリテーション医学	1	医療機関におけるリハビリテーションの実務経験を有する教員が、臨床場面での知識の活用や実用的な訓練法を含めて講義する。 全教員は、10年以上の実務経験を有する。
画像診断学	1	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして画像診断学についての授業を行う。
理学療法学	1	病院等において理学療法士として従事した経験がある。その経験を生かした理学療法に関する授業を行う。実務経験は、30年以上。
医療経済学	1	担当者は医療施設・福祉施設等において作業療法士および部門管理者として30年以上業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。

運動・応用生理学 ①	1	臨床医（実務経験35年）または理学療法士（実務経験30年）として豊富な臨床経験のある教員により授業を行う。
運動・応用生理学 ②	1	臨床医（実務経験35年）または理学療法士（実務経験30年）として豊富な臨床経験のある教員により授業を行う。
地域・医療連携論	1	・実務経験あり（重森25年、有久14年）：病院や施設、街づくり事業において理学療法士・作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして授業を行う。
予防学（予防の基礎：OT）	1	・実務経験あり：介護保険領域、保健領域で作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして介護予防等の作業療法実践についての授業を行う。（中原：17年）
作業療法管理学Ⅰ	1	担当者は病院・福祉施設等において作業療法士、また部門管理者として、30年以上業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
作業療法管理学Ⅱ	1	実務経験あり：担当者は病院・養成校において作業療法士として業務に従事した経験（16年）があり、その実務経験を生かして本授業を行う。
作業療法学総論	1	実務経験あり：担当教員はいずれも医療・保健・福祉などの機関において作業療法士として業務に従事した経験があり（有久14年、中原17年、楠田14年、丹葉33年、藤井34年、辻14年、掛川18年、生水10年、本多16年、山本16年）、その実務経験を活かして授業を行う。
解剖学演習（PT・OT）①	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験(25年) があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
解剖学演習（PT・OT）②	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験（25年）があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
解剖学演習（PT・OT）③	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験（25年）があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
基礎解剖学演習（PT・OT）①	2	各教員が、高齢者福祉領域、介護保険領域、身体障害領域、精神障害領域にて作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして作業及び活動の分析と実践方法についての授業を行う。教員実務経験年数は以下のとおりである。（藤井：34年 山本：16年 辻：14年 楠田：14年 生水：10年）
基礎解剖学演習（PT・OT）②	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験（25年）があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
義肢装具学（OT）	2	担当者は医療施設・福祉施設等で作業療法士として30年以上業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。
基礎作業学Ⅰ（基礎と作業分析）①	2	各教員が、高齢者福祉領域、介護保険領域、身体障害領域、精神障害領域にて作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして作業及び活動の分析と実践方法についての授業を行う。教員実務経験年数は以下のとおりである。（藤井：34年 山本：16年 辻：14年 楠田：14年 生水：10年）
基礎作業学Ⅰ（基礎と作業分析）②	2	各教員が、高齢者福祉領域、介護保険領域、身体障害領域、精神障害領域にて作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして作業及び活動の分析と実践方法についての授業を行う。教員実務経験年数は以下のとおりである。（藤井：34年 山本：16年 辻：14年 楠田：14年 生水：10年）
身体機能作業療法評価学Ⅰ（検査測定演習・実習）	2	実務経験あり：担当者は医療施設・福祉施設等で作業療法士として勤務した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。（山本：16年 掛川：18年 楠田：14年）
臨床実習Ⅰ（見学実習前期）	1	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり（有久14年、掛川18年、丹葉33年、辻14年、藤井34年、生水10年、中原17年、本多16年、山本16年、楠田14年）、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。
臨床実習Ⅱ（見学実習後期）	2	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり（有久14年、掛川18年、丹葉33年、辻14年、藤井34年、生水10年、中原17年、本多16年、山本16年、楠田14年）、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。
臨床実習Ⅵ（インターンシップ実習）	3	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。 実務経験：丹葉：33年 有久：14年 辻：14年 藤井：34年 掛川：18年 生水：10年 中原：17年 本多：16年 山本：16年 楠田：14年
臨床実習Ⅲ（評価実習前期）	6	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。 実務経験（丹葉：33年、有久：14年、辻：14年、掛川：18年、藤井：34年 生水：10年 中原：17年 本多：16年 山本：16年 楠田：14年）

臨床実習Ⅳ（評価実習後期）	5	全教員は、作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。 それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携をとりながら、指導にあたる。 実務経験（丹葉：33年、有久：14年、辻：14年、掛川：18年、藤井：34年 生水：10年 中原：17年 本多：16年 山本：16年 楠田：14年）
臨床実習Ⅴ（総合実習）	8	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導に当たる。 実務経験 丹葉：33年 有久：14年 辻：14年 藤井：34年 掛川：18年 生水：10年 中原：17年 本多：16年 山本：16年 楠田：15年

計 131